

総務文教常任委員会資料

令和6年9月4日

秘書広報課

【目 次】

1 加東ケーブルビジョンの契約更新について・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ページ

加東ケーブルビジョンの契約更新について

1 概要

令和6年度末をもって、株式会社オプテージ（イオ光サービス）との伝送路使用契約が満了することに伴い、令和7年度以降について以下のとおり契約更新を行い、引き続きイオ光サービスの伝送路を使用して自主放送を行う。

	平成27年度から令和6年度	令和7年度から令和11年度
契約期間	10年間	5年間
使用料/年	96,800千円 ※令和5年度決算額	約31,000千円 ※見積ベース

2 経緯

平成2年度・・・・・・滝野ケーブルコミュニケーション（略称：TCC）開局（旧滝野町）

平成16年度・・・・・・テレネットやしろ（略称：TNY）開局（旧社町）

平成18年3月・・・・・・加東市合併

平成20年度・・・・・・加東市全域サービス開始

平成27年度・・・・・・イオ光サービス先行サービス開始（移行期間開始）

平成29年度・・・・・・イオ光サービス全面移行

【背景】

当時CATV整備後二十数年が経ち、放送関連設備の老朽化に伴う不具合が頻発していた。将来の市の財政負担状況、社会の通信基盤の多様化や社会情勢を検討した結果、公設公営から、通信事業者との協業による民設民営による運営に方針を転換した。

3 現状

(1) 加入世帯数 9,674世帯（令和6年7月末時点）

(2) イオ光サービスの伝送路使用について

①現行のTVの配信サービス事業は、すべてイオ光サービスを利用している。

②自主放送とテレビ大阪の配信については、イオ光サービスの伝送路を使用し加東市の責務で行っている。

(3) 2つのチャンネルを配信

チャンネル	局名	形態
7ch	TV大阪	再送信
12ch	加東ケーブルビジョン	自主放送
	・コミュニティチャンネル(121ch) ・文字放送(122ch)	※データ放送含む

4 更新の考え方

昨今のブロードバンド化、Z世代のTV離れ、誰もが発信・受信できる環境が進むにつれ、情報が散見している。

改めて加東市が発信する情報の信用性、安心性、ローカル性に目を向け、丁寧な発信を行う必要があることからKCV局を継続する。

TVを媒体とした動画、文字情報をもって、平時の地域情報から災害時の情報まで、KCV局から発信する。



※コロナ禍 ケーブルTVを用いて授業の様態を放送

5 今後の検討事案

(1) 設備・機材

今回のイオ光サービス伝送路の使用料の減額要因は契約当初(H27年度～令和6年度)と比べ初期のハード費用が不要になったこと(旧ケーブルから光ファイバーへの入れ替え、新エリアへのケーブル延長)であるが、昨今の人件費高騰、物価上昇などを鑑みると、今後(令和12年度以降)の使用料の増額も見込まれるところである。

あわせて、リースをしているTV機材の更新も必要となってくることから、順次、汎用機にシフトするなど、適宜、リース使用料及び保守委託料の削減を図る。また文字放送もデータ放送と機能が類似しており、おくやみ放送や一般利用の頻度を鑑み、運用策を検討していく。

(2) ネット配信

対外的な動画は、現在SNS(YouTube、LINE、インスタグラム、フェイスブック)にて発信している。動画コンテンツを増やすことで活性化を図る。